

## 特定健診・特定保健指導等 Q & A



理事 玉井 修

国保連合会から以下のとおり協力依頼がありましたのでお知らせ致します。

### 「特定健診項目の判定値等の標準化」への協力依頼

本会の事業運営につきましては、格別なるご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

さらに特定健診等の費用決済においては、データの取扱等でご協力をいただき感謝申し上げます。

標記の件につきましては、去った5月7日の沖縄県医師会主催の研修会の際でも協力依頼をいたしました。再度確認をしていただきたく、下記のとおりご協力の程よろしく願います。

### 記

#### ○特定健診項目の判定値等について

「標準的な健診・保健指導プログラム」（確定版）に沿った取扱の協力をお願いいたします。（参考資料提示）

例) HbA1cの保健指導判定値5.2%を超える場合でも「正常」と判定され健診受診者本人のもとへ健診結果通知が届いており、現場で混乱をきたしているため。

## 第2章 健診の内容 【確定版22P】

### (1) 健診項目（検査項目及び質問項目）

～省略～

### (2) 健診項目の測定値等の標準化

#### 1) 基本的考え方

- 現行の健診では、健診の実施機関ごとに検査法、検査機器や試薬等の違いにより基準値、検査測定値や健診判定値が異なること

もあり、異なる健診機関の間で一律に比較を行うことは困難である。

- 一方、今後の新たな健診では、医療保険者は複数の健診機関で実施された被保険者の健診結果のデータを一元的に管理し、リスクの高いものから優先的に保健指導をしていくことが必要となるため、共通の健診判定値の設定や健診検査項目毎の検査測定値の標準化が必要である。

- また、健診項目の判定基準値については、内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）、糖尿病、高血圧症、高脂血症等の関係する学会のガイドラインとの整合性を確保することが必要であり、定められた判定基準値についても、学会との連携の下、定期的に見直しを行うシステムが必要である。

#### 2) 具体的な標準化の内容

##### ①血液検査

- 特定健診の血液検査8項目（下記）については、独立行政法人産業技術総合研究所等の協力を得て（※）、可能な限り、平成19年度末までに標準物質の開発を行い、検査の標準化を行うことができるようにする。

※標準物質は、測定値の精確さの基準となるもので、基準となる測定法を用いて、精確な測定値が表示されている。この標準物質を用いて試薬キットの測定値の精確さを合わせる。健診施設で行う検査は、このような試薬キットを用いて健診者の測定値を出す。その結果、同一の健診者は、どこの健診施設で検査しても

同じ測定値が得られる。

※現在、特定非営利活動法人日本臨床検査標準協議会（JCCLS）、独立行政法人産業技術総合研究所等が連携し、臨床検査用の標準物質の開発を実施している。

【血液検査8項目】

脂質

- ①中性脂肪、②HDL コレステロール、③LDL コレステロール

肝機能

- ④AST (GOT)、⑤ALT (GPT)、⑥γ-GT (γ-GTP)

その他

- ⑦空腹時血糖、⑧ HbA1c

○健診機関は、標準化により、保健指導の必要性などの判断に用いる判定値である「健診判定値」の信頼性を確保することができる（例えば、HbA1cであれば、保健指導判定値5.2%及び受診勧奨判定値6.1%）。

○健診機関は、検査測定値について十分な精度管理を行うことが必要である。

【5/7県医師会主催の研修会で提示済みの資料】

(1) 健診項目と判定値

	健診項目	保健指導判定値	受診勧奨判定値	単位
特定健診項目	BMI	25.0以上		
	腹囲	85以上(男性) 90以上(女性)		cm
	収縮期血圧	130以上140未満	140以上	mmHg
	拡張期血圧	85以上90未満	90以上	mmHg
	空腹時血糖	100以上126未満	126以上	mg/dl
	HbA1c	5.2以上6.1未満	6.1以上	%
	中性脂肪	150以上300未満	300以上	mg/dl
	HDLコレステロール	35以上40未満	34以下	mg/dl
	LDLコレステロール	120以上140未満	140以上	mg/dl
	AST(GOT)	31以上51未満	51以上	U/l
	ALT(GPT)	31以上51未満	51以上	U/l
	γ-GT(γ-GTP)	51以上101未満	101以上	U/l
	尿蛋白	+	++以上	
	尿糖	+	++以上	
保険者独自に追加する項目	尿酸	7.0以上8.0未満	8.0以上	
	クレアチニン	1.3以上2.0未満(男性) 1.2以上2.0未満(女性)	2.0以上	mg
		eGFR	50以上60未満	50未満

※ 判定値については、標準的健診・保健指導プログラム(確定版)p.48、「私の健康記録」A-6 参照

※ eGFRについては、60以上を正常値として集計

② 血圧測定、腹囲計測

血圧測定、腹囲計測については、測定方法を統一するため、これまでの国民健康・栄養調査等で行われてきた測定手法をもとに検討を進めていく。

3) 学会ガイドラインとの整合性

内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）、糖尿病、高血圧症、高脂血症等の判定基準値については、これらに関する学会のガイドラインと整合性がとれたものとする。

4) 基準値等の定期的な見直し

健診判定基準値等の見直しを定期的に検討するシステムについては、厚生労働科学研究費補助金による研究班等を活用して、各学会の最新の知見に基づく判定基準値とするような体制の在り方について検討する。

※具体的な健診項目ごとの標準的な測定方法、判定基準については以下参照。

【確定版 49P 別紙 5】

健診検査項目の健診判定値

番号	項目コード (JLAC10)	項目名	データ基準		データタイプ	単位	検査方法	備考
			保健指導判定値	受診勧奨判定値				
1		血圧(収縮期)	130	140	数字	mmHg		
2		血圧(拡張期)	85	90	数字	mmHg		
3	3F015000002327101 3F015000002327201	中性脂肪	150	300	数字	mg/dl	1:可視吸光度法(酵素比色法・グリセロール消去) 2:紫外吸光度法(酵素比色法・グリセロール消去)	空腹時の測定を原則とした判定値 空腹時の測定を原則とした判定値
4	3F070000002327101 3F070000002327201	HDLコレステロール	39	34	数字	mg/dl	1:可視吸光度法(直接法(非沈殿法)) 2:紫外吸光度法(直接法(非沈殿法))	
5	3F077000002327101 3F077000002327201	LDLコレステロール	120	140	数字	mg/dl	1:可視吸光度法(直接法(非沈殿法)) 2:紫外吸光度法(直接法(非沈殿法))	
6	3D010000002226101 3F077000002327101 3F077000002327201	空腹時血糖	100	126	数字	mg/dl	1:電位差法(ブドウ糖酸化酵素電極法) 2:可視吸光度法(ブドウ糖酸化酵素法) 3:紫外吸光度法(ヘキソキナーゼ法、グルコキナーゼ法、ブドウ糖脱水素酵素法)	
7	3D045000001906202 3D045000001920402	HbA1c	5.2	6.1	数字	%	1:ラテックス凝集比濁法(免疫学的方法) 2:HPLC(不安定分画除去HPLC法)	小数点以下1桁 小数点以下1桁
8	3B035000002327201	AST(GOT)	31	51	数字	U/l	紫外吸光度法(JSCC標準化対応法)	
9	3B090000002327201	ALT(GPT)	31	51	数字	U/l	紫外吸光度法(JSCC標準化対応法)	
10	3B045000002327101	γ-GT(γ-GTP)	51	101	数字	U/l	可視吸光度法(IFCC(JSCC)標準化対応法)	
11	2A030000001930101	血色素量 [ヘモグロビン値]	13.0(男性) 12.0(女性)	12.0(男性) 11.0(女性)	数字	g/dl	自動血球算定装置	小数点以下1桁(血色素量の上限值については、健診判定値、受診勧奨判定値とも男性18.0、女性16.0とすることを検討する。)

※1～2のデータ基準については日本高血圧学会「高血圧治療ガイドライン」に基づく。  
 ※3～5のデータ基準については日本動脈硬化学会「動脈硬化性疾患診療ガイドライン」及び「老人保健法による健康診査マニュアル」に基づく。  
 ※6～7については日本糖尿病学会「糖尿病治療ガイド」等の各判定基準に基づく。  
 ※8～10のデータ基準については日本消化器病学会肝機能研究班意見書に基づく。  
 ※11のデータ基準については、WHOの貧血の判定基準、人間ドック学会作成の「人間ドック成績判定及び事後指導に関するガイドライン」のデータ等に基づく。  
 ※検査方法については、それぞれの検査項目毎に90%以上をカバーするトレーサビリティが取れた日常検査法を記載した。  
 ※検査項目コードについては、上記以外の検査法も含め、JLAC10コードを用いる。